

Ⅲ. 産学官連携イベント

1. CBC主催イベント

(1) CBCセミナー

9月5日(月)に情報処理学会 情報システムと社会環境研究会ならびにビジネス創造センターの主催、小樽商科大学地域研究会の共催でCBCセミナーを本学5号館370教室にて開催しました。

今回のCBCセミナーは9月5日-6日に小樽商科大学で開催された「第117回 情報システムと社会環境研究会」の特別セッションとして行われたものです。

テーマは「『つながり』を創り出す情報システムー「知の循環構造」の構築を目指してー」で、学際的研究者と実践的な取り組みを行っている企業人から、さまざまな経済活動や行政の中でITが活用されている実態について5つの報告がありました。

参加者は情報処理学会の会員のほか一般の参加もあり、56名となりました。コーディネータは深田秀実准教授(小樽商科大学社会情報学科)が務めました。



プログラム

【14:40-15:40】

発表1: 農業クラウドによる農業生産者の課題解決への取り組み

山崎富弘(富士通株式会社)

発表2: 北海道における自治体クラウドの取り組み

白井芳明, 八重樫裕司(株式会社HARP)

【15:50-17:20】

発表3: スマーターフィッシュプロジェクトー釧路での事例紹介を中心としてー

末次信治(日本IBM株式会社)

発表4: 函館観光情報サイト“はこぶら”の構築を通じた実践的ICT教育

奥野 拓(公立はこだて未来大学)

発表5: 情報システム研究とヒューマンファクターとの接点

平沢尚毅(小樽商科大学)

(2) 産学官連携研究成果報告会

3月13日(火)、小樽商科大学札幌サテライトにて「平成23年度小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)産学官連携研究成果報告会」を開催しました。

今回は、八木宏樹教授と相内俊一教授による2本の報告を行いました。それぞれの報告の前には、澤田副センター長が制作した教員紹介ビデオ(八木教授3分、相内教授3分45秒)を上映しました。

八木教授は「農商工連携と地域食クラスターのあり方」というタイトルで、2011年度小樽商科大学重点領域研究「韓国における北海道食品(農水畜産物)の安全性に対する意識調査及び農商工連携に係るビジネス習慣の差異に関する日韓共同研究」について報告しました。

相内教授は「過疎と高齢化の中で生きる～大学が仕掛ける赤平での実験～」というタイトルで、コープさっぽろ、北翔大学、赤平市と連携したソーシャルビジネスについて紹介し、道内各地での「地域まるごと元気アッププログラム」の可能性について報告しました。

約40名が参加し、参加者からは今後の事業の展開に期待する声などが寄せられました。

プログラムは以下のとおりでした。

14時00分～14時05分 李濟民ビジネス創造センター長挨拶

14時05分～15時05分 『農商工連携事業と地域食クラスターのあり方』

八木宏樹(小樽商科大学商学部一般教育等教授)

15時20分～16時20分 『過疎と高齢化の中で生きる—大学が仕掛ける赤平での実験—』

相内俊一(小樽商科大学大学院アントレプレナーシップ専攻教授)



八木宏樹教授



相内俊一教授

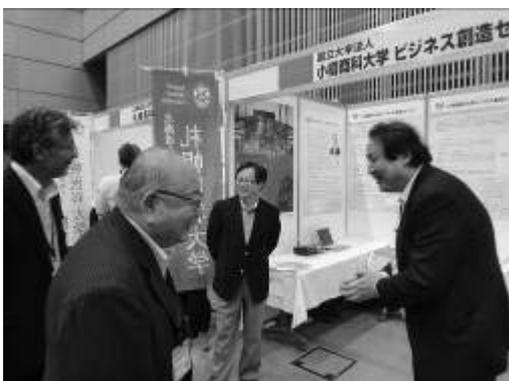
2. 出展イベント

(1) 北洋銀行ものづくりテクノフェア 2011

8月19日(金)に札幌コンベンションセンターにて開催された「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2011」(主催:北洋銀行)に出展しました。

このフェアは、「優れた技術や製品を有する中小企業、大学、支援機関等が一堂に会する場を提供し、販路拡大や企業間連携の促進、情報交換や技術交流を通じて、北海道のものづくり産業の振興を図る」ためのものです。2007年より開催され、今年は過去最多の149社の出展がありました。来場者も約3500人にのぼり、充実したイベントでした。

ビジネス創造センターは、「産学官金連携」コーナーに出展しました。社会科学系の地域共同研究センターとして、「ものづくり」を支援するセンターの活動と大学の紹介をポスター展示、DVDの上映、資料の配付で行い、李センター長、澤田副センター長、今野助手が来場者に対応しました。センターでは今年度より提携コンサルタントを起用した「CBCビジネスサポート」を開始しました。この制度への来場者の関心は高かったようです。また、学部、OBSの卒業生の方も立ち寄られ、情報交換が行われました。



来場者対応をする李 済民センター長(右2人目)、
澤田 芳郎副センター長(右)



CBC ブース

(2) ビジネス EXPO「第25回 北海道 技術・ビジネス交流会」

10月10日(木)ー11日(金)にアクセスサッポロで開催されたビジネス EXPO「第25回 北海道 技術・ビジネス交流会」(主催:北海道技術・ビジネス交流会実行委員会)に出展しました。このイベントは道内最大級のビジネスイベントで、今回は313の道内外企業・団体・大学・研究機関が出展し、2日間の来場者は約1万8千人でした。

ビジネス創造センターの出展は平成17年以来6年ぶりの出展で、以前は「国立大学法人小樽商科大学ビジネス創造センター」名で出展していましたが、今回は「国立大学法人小樽商科大学」名での出展となりました。

ブースでは、小樽商科大学、ビジネス創造センター紹介のポスター展示、パンフレットの配布、DVD の上映を行いました。小樽商大が 100 周年を迎えたばかりということもあって関心は高く、両日合わせて約 20 名に対応しました。

10 日は李濟民センター長と今野茂代助手、11 日は澤田芳郎副センター長、田中志帆事務補佐員がブースで来場者の対応にあたりました。



CBC ブース



来場者対応をする李 濟民センター長（左）

3. 三大学共同研究センター臨時情報交換会

2005 年度から本学ビジネス創造センターと滋賀大学産業共同研究センター、福島大学地域創造支援センターの間で開催されてきた「三大学共同研究センター定期情報交換会」は、2010 年度に二巡目を終えて円満終了しましたが、滋賀大学センターの呼びかけにより、臨時情報交換会を 2011 年 12 月 8 日に本学札幌サテライトで実施しました。福島大学は新谷崇一センター長（副学長）、丹治惣兵衛教授、事務職員渡辺弘利氏、滋賀大学は野本明成センター長、山本卓特任教授、中井光男特任教授、若林忠彦特任教授、本学は李濟民センター長、澤田芳郎教授、今野茂代助手が参加しました。

情報交換会は李濟民センター長の挨拶で始まり、三大学センターがそれぞれ活動概要を紹介（各 15 分）。続いて福島大学の丹治教授（同大学「うつくしまふくしま未来支援センター」企画・コーディネーター部門長兼任）から福島大学の震災対応と放射能除染ほかに関する講演（1 時間）がありました。さらに各地域の観光活性化への取組紹介と全体討議（2 時間）を行いました。滋賀大学は若林特任教授による研究発表、本学は澤田教授による南相馬市復興シンポジウム聴講、福島市観光物産協会ヒアリング、スバリゾートハワイアンズ（いわき市）視察の結果等を報告して議論に供しました。

このように、今回の情報交換会は観光を切り口に巨大災害をどう受け止めるかをテーマとするものとなりました。参加者全員による真摯な議論を通して十分な情報交換を行いました。

